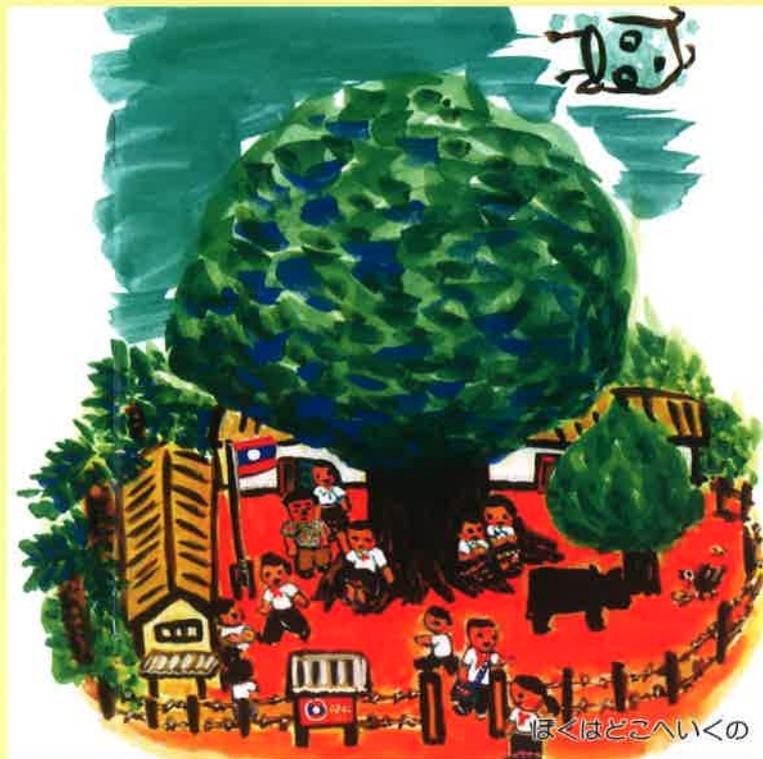


子どもは未来をつかみたい

2022年度年次報告 2023年度年次計画

第9次中期計画概要

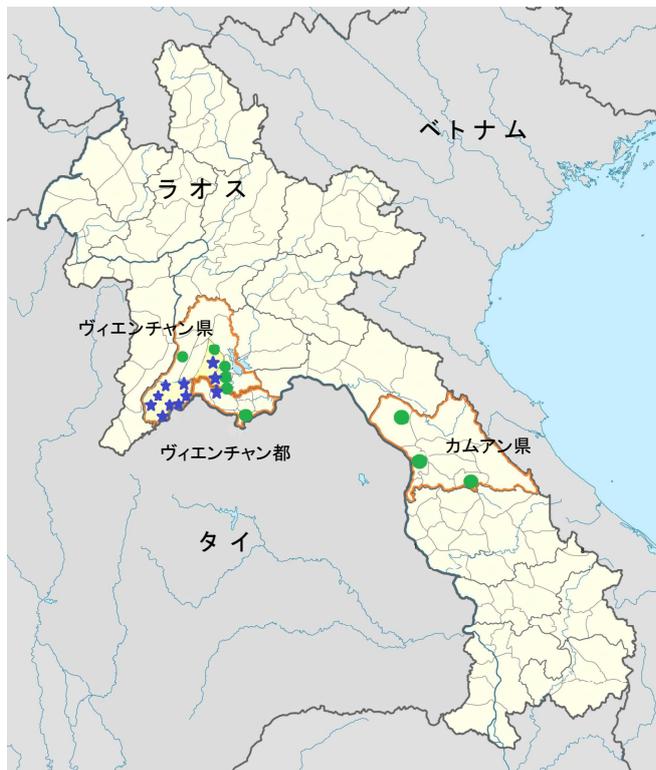
(認定) 特定非営利活動法人 **ラオスのこども**



目次

2022年度 第21期 事業報告

この1年	p2
ラオスでのプロジェクト	
Ⅰ. 本に出会い、親しむ(読書推進活動)	p3
Ⅱ. 本をつくる(出版プロジェクト)	p5
Ⅲ. もっと学ぶことができるように(奨学金)	p6
日本での活動	p6
組織の運営	p7
2022年度 第21期 会計報告	p8
2023年度 第22期 事業計画・予算	p9
第9次中期計画	p9



- ★ 中等学校の図書館整備・役割拡充事業 11校
- 学校図書室(HakArn)整備新規開設 9校

「ラオスのこども」とは？

はじめに

1982年、ベトナム戦争後の長引く混乱と停滞の中、東京在住のラオス人と日本の友人とが、「ラオスの子どもたちも日本の子どもたちと同じように絵本を楽しんでほしい」と幼稚園のバザーなどで集めた絵本をラオスに送りました。これが「ラオスのこども」の活動の始まりです。

足どり・活動の柱

本も書店も図書館もほとんどなく、読書をする人も少ないラオスでは、多くの先生にとって、絵本は初めて出会うものでした。1990年代に入り、会はラオス語の絵本出版を開始。あわせて、子どもと本をつなぐ先生のトレーニングなど読書の推進普及に力を注ぎました。また、学校では音楽・図工・体育や部活動が行われていないことから、そうした活動ができる児童館のような「子どもセンター」を各地で開設支援しました。

めざすもの 子どもは未来をつかみたい

「ラオスのこども」の組織の理念は、校正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自

らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくることです。

これまでの取り組み、成果

皆さまのご支援の結果、今年度は、ラオス語図書5種類12,800冊を現地で出版し、9か所で新規の学校図書室を開設することができました。

今年度末までの累計ではラオス語図書 235種類 94,085冊(図書200/紙芝居19/教科書類6/ニュースレター10)を出版し、ラオスの小中高校10,593校(小学校8,757校、中等学校1,836校)のうち、349か所で図書室(うち16か所は地域文庫)を開設し、2,732校に図書セットを配付。約3000校でフォローアップをしました。

学校外において子どもたちが自由に様々な活動ができる「子どもセンター」は、これまでに全国14ヶ所の運営を支援しました。

2022年度 第21期 事業報告 (2022年7月1日～2023年6月30日)

この1年

ラオス社会は、この2年以上続いたコロナ禍により経済が縮み、雇用が悪化しています。さらにウクライナ戦争の影響を受け、ガソリン価格をはじめとしてすべての物価が上昇しています。一杯約15,000kipだった麺が現在は安くて20,000kip、地方では2倍となっており、市民の生活は大変厳しい状況が続いています。ヴィエンチャンの街を歩いても、以前流行っていたレストランやホテルに閉鎖している店が多く見られ、車の通日も減少しているように感じられます。会がヴィエンチャン県で実施している奨学金事業で奨学金を受給している学生へのインタビューからも、家庭の経済状況が悪化していることが覗えます。この世界的な経済の悪化はしばらく改善が難しいと考えます。とはいえ、21年末に開通した中国による鉄道は、ラオス人乗客も多く、観光を楽しむ層が確実に増えていることも事実で、社会の階層分化が進んでおり、この社会の現実を踏まえた「ラオスのこども」の活動が必要となっています。

重点的取り組み

この数年、厳しい財務状況から、いかに運営を維持するか腐心する時期が続きました。この最優先課題に対し、様々な皆さまからのご支援に加え、支出削減などの努力により、おかげさまで今期末では財務状況を改善することができました。皆さまに感謝します。

この改善を優先させることもあり、2022年度から開始する予定であった第9次中期計画のとりまとめを一年間遅らせ、今年度は、理事により組織の将来像、運営展開における課題などについて、繰り返し話し合いました。その結果策定された第9次中期計画では、事業はこれまでの成果を継承する内容を発展させ、運営面で

は組織の世代交代をすすめる、ラオスではマネージメント力を高め、自律性を増進する方策を基本とするものとなっています。

組織運営においては、日本人駐在員がラオス事務所にはほぼ10ヶ月ほど不在となったことから、東京、ラオス間で密なコミュニケーションを保つよう、定例会議を確実に開催し、事務所間でズレが生じないよう対応しました。また公的資金に頼らずとも、組織、事業運営ができるよう、資金調達、支援者確保の目的で、コロナ禍で中断されていた各種イベントや物販企画を再開し、さらに書き損じハガキ・切手収集キャンペーンに力を入れ、一定の成果とすることができました。ALC図書館の支援を目的とするクラウドファンドにも多くのご支援をいただきました。賛助会員会費も税制優遇を得られるよう会員制度を改訂し、会員入会キャンペーンなどに取り組んでいます。この他ラオス事務所においては、国際協力機関・組織や私立学校に対して図書購入を働きかけ、さらに読書推進活動の事業受託の広報も積極的におこないました。

事業においては、「ラオス語図書出版・本を読む環境の整備」を基本として、各種事業を継続しました。さらに、2022年7月に外務省の日本NGO連携無償資金協力事業「中等学校図書館整備を通じた読書推進事業」が終了し、その成果を引き継ぎ、2023年5月15日から3年間にわたるJICA草の根技術協力事業として「中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業」を開始しました。国内では、昨年引き続き、企業の皆さまの「ラオス語絵本プロジェクト」への参加が増えています。とはいえ、事務所スタッフの減少により、各種サービスで支援の皆さまには十分な対応が出来なかった面もあり、来年度での改善を目指します。

ラオス教育データ

純就学率*1進学率の推移(全国平均)

年度	純就学率(%)		中等学校 進学率
	小学校	中等学校*2	
2005-2006	83.9	51.7	
2010-2011	94.1	62.9	87.6
2015-2016	98.8	82.2	93.8
2018-2019	99.0	82.8	87.9
2021-2022	98.1	67.8	85.6

*1 純就学率:教育を受けるべき年齢に実際に教育を受けている人の割合

*2 中等学校は7年間あり、1~4年が前期課程、5年~7年が後期課程で、日本の中学、高校レベルにあたる。純就学率は前期課程のもの。
(出典)教育スポーツ省 Annual School Census

入学した児童生徒が卒業する割合

年度	小学校	中等学校前期	中等学校後期
2013-2014	75.3	78.0	86.7
2015-2016	77.9	71.8	85.2
2017-2018	80.4	68.4	81.0
2019-2020	79.8	65.2	76.1
2021-2022	77.1	63.1	74.5

小中学校の就学率や中等学校への進学率は上昇してきていましたが、ここ数年、中等学校の進学率が下がっています。また、入学しても、卒業できない子どもが中等学校で増加しています。小学校で23%、中等学校前期課程で37%が卒業出来ていません。

本に出会い、親しむ（読書推進活動）

ラオスではこれまで、図書館や書店が身近にない地域が多く、学校で読み書きを習っても、学校を離れると日常で文字にふれる機会がなく、新しい知識や技術を学びたいと思っても、チャンスが限られてしまいます。そこで当会では、子ども達に本を届け、読書の楽しさを伝える活動をおこなってきました。ラオス国立図書館、教育スポーツ省と連携し、1992年から約3,000校に図書セットを配付し、349校に図書室を開設し、読書習慣の普及を図ってきました。

そして今、私達が行っているのは、子ども達の「もっと読みたい」「もっと学びたい」を支える活動が、ラオスの人々自らにより担われ、広さと深さを持つようになることです。そのため当会は、学校教員、教育局、保護者、地域住民など子どもを取り巻く人々が本に関心をもてるよう、多方面から改善のためのアプローチをしています。

中等学校の図書館整備を通じた読書推進事業

3年5ヶ月にわたり実施した事業は2022年7月末に終了しました。ヴィエンチャン県の中等学校3校において図書館を建設し、読書環境の整備を実施。各校では、研修した図書館サインや展示、図書利用が継続的に実行されており、事業内容の定着が確認できました。

今回の事業では、郡教育スポーツ局のサポートのもとで、村教育開発委員会（VEDC）が学校と協力し、学校図書館運営を支えていく基盤を作ることが出来ました。また、学校図書館運営報告書や計画の策定を通じ、図書館担当教員が、購入希望の図書をリストアップしたり、学校の状況を踏まえた独自の活動や予算を考えるなど、学校とVEDCがオーナーシップを持ち、自分たちの図書館を運営する習慣がついてきています。

また、図書館担当教員どうしのSNSを活用したネットワークや交流大会を通じて、各校の担当教員同士が助け合える環境も生まれています。この事業の成果を生かし発展させ活動を県内に広げていく計画です。

【日本NGO連携無償資金協力事業】

中等学校における学校図書室の役割拡充

ヴィエンチャン県ムーン郡とサナカム郡の中等学校8校において、図書室を軸とした教育改善事業を展開する準備を進めました。

事業開始に必要なラオス政府の了承を取付け、2月に覚書を締結することができ、その後、JICAとの契約交渉をすすめ、5月15日から3年間の事業が開始となりました。開始時には、県・郡教育スポーツ局で構成されるプロジェクトチームを結成し、役割や事業内容、ゴールの共有をおこないました。

【JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）】

小中学校での図書室の整備

新規開設は、3県で2か所の小学校、7校の中等学校に図書室を開設することができました。9校合わせて、4,300人を超える児童生徒先生たちが、図書を読むことが出来るようになりました。

既設図書室に対するフォローアップ活動については、ヴィエンチャン都内の3か所の学校図書室について活動状況を調査し、その後に研修を実施しました。また、ルアンナムター県の20校に対し、オンラインでの

フォローアップ研修を実施。合計27校に対して、新しい図書のセットを配布しました。



【ご支援：福岡那の香ラインズクラブ 沖電気工業(株)OKI愛の募金 江川静江 岩名秀樹・寿美子 書き損じハガキ持ち寄りキャンペーン2021-2022 ベルマーク教育助成財団】

学校図書室活用のための応用研修

図書室がもっと活用されるように、図書室のサイン・展示と、授業での図書活用を促す「応用研修」を、2022年10～11月に当会が過去に図書室の開設支援5校で実施しました。参加者から、あまり図書室を利用することがないという声があったことから、ゲームを取り入れたオリエンテーションで図書室に慣れてから、図書活用の授業計画を立てる実習を行いました。



図書室ボランティア生徒と担当教員が協働で取り組んだサイン・展示では、「展示をすることで、生徒たちがもっと図書に興味を持つようになると思う（教員）」、「自分でも展示をやってみて、利用者を増やしたい（生徒）」との声が上がりました。また、研修には、同郡の他校図書室の教員たちが自主的に参加してくれました。

【ご支援：冬募金2021、特定非営利活動法人地球の木】

事務所併設子ども図書館の活動状況

財政難によるラオス事務所併設図書室の移転と閉鎖を止めるために、クラウドファンディングを2022年9月8日～11月8日に実施し、121名の方から1,026,400円のご支援をいただきました。

図書室を維持発展させていくために、子ども達が快適に利用できるよう、看板やフェンスの塗り替え、床の補修、電気の付け替えなど、設備の修繕をおこないました。また、近隣のサイセター中等学校と連携していくために、学校の図書室を訪問し研修を実施しました。

さらに、コロナで減少した来館者を呼び戻すため、子ども達を招いたスペシャルイベントを12月27日に開催しました。



ラオスでも都市部では子どもたちの図書離れが見られることから、施設環境の改善に加え、スタッフによる日常的な働きかけが必要です。

【ご支援:クラウドファンディング2022秋】

本をつくる（出版プロジェクト）

ラオスでは、首都でも書店や図書館があまりなく、本を目にする機会が少ない状況です。子どもたちが本に親しむために、当会では1990年から絵本を中心にラオスでの出版を手がけてきました。作家がほとんどいない中、日本人やタイ人の専門家による絵本作りセミナーを開いたり、コンクールを通して若手作家を発掘・育成し、これまでに235点940,855冊の本や紙芝居を出版しています。

近年は消費社会が進み、ファッションや流行情報を発信する雑誌も登場し、出版を取り巻く状況は急速に変化しつつあります。首都では図書を販売する場所が少しずつ増えています。一方で、子ども向けの書籍はバラエティが少なく、質の向上が課題です。私たちは「子どもの心に灯をともし」ような、質の高い本作りを目指しています。

人気の図書2点3,500冊を出版

再版5作品、計12,800部を出版しました。



左:『くだものをかぞえよう』2,500冊

右:『おほしさまきらきら』2,500冊



左:『なんのどうぶつ? 1』3,000冊

右:『なんのどうぶつ? 2』3,000冊

25年前の初版刊行以来、ラオスの子どもたちに親しまれてきた文字絵本・数字絵本。絶版になっていた数字絵本と、再版の度に色が変わっていた文字絵本について、初版の色合いを復元して、2022年8月に4タイトル11,000冊が完成しました。さらに、出版に合わせて、ラオス事務所スタッフの読み聞かせ動画も公開しました。

ラオスで身近なバナナとビニール袋の物語を通して、子どもたちにラオスの自然の豊かさ、自然と共に営む暮らしの大切さを伝える、環境絵本『ぼくはどこへいくの』。長年ラオスの紙芝居・絵本の制作に携わるやべみつのりさんがイラストを手掛け、2004年と2012年に出版しました。在庫切れとなっていたがさらに多くの子どもたちに届けるために1,800冊再販しました。



この絵本は、子どもたちが物語を楽しむだけでなく、環境教育、ゲームなど、様々な使い方をすることが出来ることことから、当会の活動はもとより、様々なNGOが実施しているプロジェクトでの活用を期待しています。

【ご支援:募金キャンペーン、クラウドファンディング 2022春、特定非営利活動法人地球の木】

集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

ラオスの学校は、座学による暗記が中心で、音楽、図工、体育はカリキュラムはあっても、指導ができる先生がいない、道具や材料がないといった理由で、子どもたちの情操面を伸ばすような活動をする機会がありませんでした。そんな中、1994年に、当会などの協力によって、自己表現活動ができるラオス初の子ども施設として、情報文化省による「子ども文化センター」が開設されました。その後、活動は定着し、同様の施設が全都県に設置され広がりました。当会では、自立を促す方向から、各センターの個別支援を減らしましたが、その後、社会の変化にともない、子ども達のニーズも多様化することで、来館者が減少し、活動が停滞したり停止した館が増えています。

今期は全国での活動状況の把握をしつつ、要望のあるセンターに対し、図書の配布をおこないました。

もっと学ぶことが出来るように（奨学金事業）

現在のラオスでは、日本の中学と高校にあたる中等学校に進学しても、経済的な事情で就学を継続することが困難な生徒が少なくありません。そんな生徒達が継続して学校に通い、夢を叶えられるように支援する「奨学金」です。

タイの企業より、2012年～2019年の8年間受託し、その後コロナにより休止されていた奨学金事業が、3年ぶりに復活し、再度受託しました。高校生（中等学校5年～7年生）が対象で、教育スポーツ局と協力し、ヴィエンチャン都全域及びカムワン県4郡にある全ての公立校に願書を配布。書類選考をおこない、ヴィエンチャン都110人、カムワン県110名、合計220名の奨学生を決定し、1年間の奨学金を提供しました。

【タイ The Siam Cement Public Co. Ltd.より受託】

ヴィエンチェン県のポンサイ中等学校、サカ中等学校、ヒンフープ中等学校の3校にて当会独自の奨学金事業を実施。同校で実施してきた事業が今年度終了することをふまえ、新たな奨学生の募集は行わず、継続して在学中の3名の生徒に奨学金を給付しました。

奨学金受給生徒にインタビューすると、どの生徒も、野菜を栽培し売ったり、織物を織って販売するなど、家計を助けるために働いています。



男子はガソリンスタンドや夜警のバイト、女子は結婚式場などのイベントのバイトをする子もいます。

特にガソリンの高騰は、通学にバイクやバスを使用しなければならない子どもたちにも大きな影響が出ており、ガソリンを入手できなかったりバス代が支払えないために、学校を欠席しなければならない日があるとのことでした。不況により生徒たちを取り巻く環境が悪化し、奨学金のニーズが高まっています。

【ご支援：マンスリーサポーター、指定寄付】

日本での活動

日本では、活動を広く知らせ、ご支援、参加の呼びかけなどをおこなっています。また、どなたにも参加いただける、ラオスの文化や食を紹介するイベントや、学校に出向いて国際理解教育の参加型プログラムも実施しています。いずれのイベントもインターンやボランティアの仲間とともに作り上げています。

中学校・高等学校・大学で授業

今期も継続してオンライン開催と対面を合わせて、5か所で9回の講師派遣を実施することが出来ました。また、今年度も学校への講師派遣をおこない、ラオスや国際協力、当会の活動への理解を促進することができました。オンラインで東京・ラオスの事務所とむすび、講座を実施することが定着してきています。



参加型プログラム

●書き損じハガキの収集

今期もインターンがチームに参加し回収キャンペーン第2弾を実施しました。毎日新聞、熊本日日新聞、東京新聞、読売新聞に記事を掲載していただき、11月～3月で508件、葉書16,206枚、切手121万円相当、総額205万円相当の支援をいただき、目標を大きく上回ることができました。

●ラオス語絵本プロジェクト

今年度のプログラム申込者は84件で、合計1,840冊の絵本が作成されました。件数は昨年と変わらないものの図書は約500冊増加しています。企業での社員向け絵本作りイベントは、引き続き在宅での実施でしたが参加者が増え、完成する絵本も増加しました。また個人での新規参加も多く、中には継続的な参加者もいます。しかし、ラオスへ送る船便が引き受けを休止しており、輸送なかなか出来ずにいます。ボランティアが少しずつラオス事務所に絵本を運搬してくれました。



イベント開催・活動ミーティング

恒例のピーマイパーティは、着席形式から立食形式にもどし、バーシーの儀式も実施する形で開催できました。



また今年度は、各地のボランティアの協力により、地域でのイベントに出展し、活動紹介や物品販売をおこなうことができました。

例年実施している東京谷中の「エスノースギャラリー」や、京都哲学の道の「桜谷町47」での展示販売会も、開催することができました。加えて、5月には久しぶりに「ラオスフェスティバル2023」にも出展しました。



組織の運営

1. 全体運営

■理事会

理事6名、監事2名により運営が担われ、年4回理事会を開催し、オンラインでの開催により毎回ほぼ全員に参加となりました。財政や運営状況の確認、プロジェクト実施状況の報告、運営の展望などが話し合われました。また、「理事懇談会」を4回開催し、活動の将来を考え、第9次中期計画の方向性を決めました。

■通常総会

9月17日、2022年度通常総会を活動会員42名（オンライン参加14名、書面表決・委任状提出16名を含む）、活動協力者3名、計45名が参加し開催。2021年度第20期の事業報告案及び決算報告案に関する事項が承認され、2022年度第21期の事業計画書、予算案について報告されました。第2部は「成長する図書館-スタッフの挑戦、学校の熱意」というテーマで、ラオスから帰国した駐在スタッフ渡邊淳子による活動報告をおこないました。

2. 東京事務所

■体制

常勤専従スタッフは1名、業務委託1名、非専従事務局1名、アドバイザー1名とともに運営を維持。今期も引き続き、会計ボランティアスタッフ2名、インターン4名の多大なる協力により事務局が支えられました。

■事業運営

日本NGO連携無償資金協力事業において、現地で開催した終了時評価会議で、活動に対して高い評

価が得られたことが、5月に開始したJICA草の根技術協力事業に対し、行政機関や村人の理解、関心が高まることに繋がりました。

また、新事業開始までの10か月で、専門家からのアドバイス、現地での調整などの準備を行えました。出版や図書館、保育の専門家と連携することで、プロジェクト運営の質を高いものでできています。

■組織運営

支援者の増加により運営の安定度を高められることから、賛助会員制度から対価性を無くし、会費が税制優遇を得られるよう東京都への手続きが完了しました。

ラオス事務所日本人駐在員の帰国にともなうラオス事務所との情報共有の減少が懸念されましたが、両事務所合同ミーティングを定期的にオンラインで開催することで共有がおこなわれました。

現地政府との活動覚書(MoU)取得は、役所に対する働きかけを頻繁におこなうことで、比較的順調に進めることができました。

■資金調達・広報

SNSの投稿回数は前年度より減ったものの、ホームページ記事更新は順調におこなわれました。新聞記事掲載は6回となり、活動の周知に繋がりました。

紙媒体「ラオスのこども通信」の発行は、年3回合計4,000部の発行となりました。また、年次報告書は12月に500部発行。奨学金の支援者向けに「マンスリーサポーター通信」を2回発行しました。

英文対応での寄付受け付けを改善すると共に、通信記事を英文にして、ホームページで公開しました。

クラウドファンディングを9月～11月に実施し、121名の方から100万円を超える支援がありました。



財務改善のため資金調達に組織として集中的に取り組み、ある程度の成果を上げることが出来ました。とりわけ昨年に続き、書き損じキャンペーンがメディアで取り上げられたことで、新たな方々に情報を届けることができ、支援者となってくださる方もいます。

■人材育成

昨年に続き、専門家の現場派遣が困難であったことから、ラオスでのセミナー開催や事業アドバイスはオンラインによりました。東京事務所スタッフもオンラインにて専門家のアドバイスを共有することができました。

3. ラオス事務所

■体制

年間を通して4名の現地スタッフにより運営されました。2023年5月から日本人駐在員1名を派遣しました。

■事業管理

外務省との連携事業は、2022年7月に無事完了。続けて、JICAとのパートナーシップ型草の根事業はMoUを締結し、2023年5月に事業を開始できました。その他事業もほぼ計画通りに進めることができています。

これまでの事業実施で経験を積み、ラオス事務所スタッフは会議、セミナーなどで、ある程度イニシアチブをもってリードすることが出来るようになっていきます。

■組織運営

コロナ禍の影響により、事業期間の延長があったことから、業務スケジュールの変更調整が続き、計画されていた事業報告や業務管理体制の整備などは十分にはおこなえませんでした。

定期的なスタッフミーティングを繰り返すことにより、スタッフは事業全体を見通し、建設的な発言もできるようになってきています。また、合同ミーティングにより相互の意思疎通はかなり改善されてきており、NGOスタッフの意義、役割について理解を深めています。

■資金調達

ラオスでの図書販売は、コロナ後に活動を再開した団体が増えたため、目標の110万円を大きく上回る170万円の売上となりました。国際NGO(World Vision, Child Fund Lao, Action Education等)からの大口の発注があったことが売りにげに貢献しています。

ラオスで活動する国際機関から、図書購入や研修提供の授業を受託することができました。

新規開拓はできませんでした。会が持つ読書推進活動ノウハウをより生かし、ラオスの子どもたちが読書の機会を得られるよう、国際協力団体からの事業受託を広げる必要があります。

■人材育成

11月に実施した「授業における図書活用研修」では、日本からオンラインで参加した専門家のアドバイスを受けながら、スタッフがファシリテーターとしてワークショップを実施しました。



タイ東北部ブンカン県で実施の地域の物語から絵本を制作するプロジェクトの研修に急遽参加できるようになり、2023年7月初めにスタッフ3名が参加しました。

■広報

ラオス国内での団体認知度を高めるため、ラオス事務所のフェイスブックページで、ラオス事務所の活動紹介や出版本の宣伝をしました。

ラオス事務所のフェイスブックページは、1年間で44回の記事を投稿し、積極的に活動紹介や出版本の宣伝をしました。



2022度 第21期 会計報告 (2022年7月1日～2023年6月30日)

活動計算書

科目	金額
I 経常収益	
1.受取会費	631,000
2.受取寄付金	6,869,370
3.受取助成金等	14,068,474
4.事業収益	7,449,583
5.その他収益	67
経常収益計	29,018,494
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	5,724,249
(2)その他経費	19,867,210
事業費計	25,591,459
2.管理費	
(1)人件費	2,319,485
(2)その他経費	2,863,544
管理費計	5,183,009
経常費用計	30,774,468
税引前当期正味財産増減額	-1,755,974
法人税等	70,000
当期正味財産増減額	-1,825,974
前期繰越正味財産額	12,080,311
次期繰越正味財産額	10,254,337

貸借対照表

科目	金額
I 資産の部	
1.流動資産	14,451,696
資産合計	14,451,696
II 負債の部	
1.流動負債	4,197,359
負債合計	4,197,359
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	12,080,311
当期正味財産増減額	-1,825,974
正味財産合計	10,254,337
負債及び正味財産合計	14,451,696

事業別損益の状況

科目	経常収益計	経常費用計
出版事業	3,776,978	2,410,123
中等学校の図書館整備	1,155,777	2,894,533
学校図書室の整備 *1	2,997,709	6,045,482
JICA草の根事業	1,693,000	2,130,528
奨学金事業	11,901,573	8,518,429
交流事業 *2	1,992,549	1,106,563
収益事業	3,784,101	2,485,801
事業部門計	27,301,687	17,560,114
東京管理費	1,357,426	3,161,116
ラオス管理費	359,381	2,021,893
管理部門計	1,716,807	5,183,009
合計	29,018,494	30,774,468

監査報告書

特定非営利活動法人 ラオスのこども
代表 チャンタソン インタヴォン 殿

2023年 9月 2日

特定非営利活動法人 ラオスのこども

監事 矢崎芽生 
監事 脇田康司 

私たちは、特定非営利活動法人ラオスのこども 第21期 2022年7月1日から
2023年6月30日までの事業年度における、事業及び会計の監査を行い、次の通
り報告する。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査
手続きを用いて、財務諸表ならびに収支計算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会に出席し、理事及び事務局から業務の報告を聴取
し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを用いて、業務の妥当性を
検討した。

2. 監査意見

- (1) 活動計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載事項と一致し、法人の
収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 業務報告書の内容は、真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令の定款に違反する重大な過失
はないと認める。

以上

2023年9月2日に脇田康司監事(弁護士)、矢崎
芽生監事(公認会計士)により、監査がおこなわ
れ、上記の通り、監査報告書を受け取りました。

*1 学校図書室の整備事業には、読書推進プロジェクト統括費
用、新規案件形成の調査費が含まれます。

*2 交流事業は、各種イベントや講演会費、ラオス語絵本プロジェク
ト、講師派遣・訪問受入、子どもセンター事業が含まれます。

*3 出版事業、奨学金事業、交流事業、収益事業の経常収益に
は、管理費及び使途が制約された寄付金が含まれます。

書き損じハガキキャンペーンの成果やラオスでの図書
販売が好調だったことにより、事業収益を大幅に増やすこ
うことができました。また、ラオスでの奨学金事業をはじめとし
た事業受託が増えたことから、受取助成金を増やすことが
できました。しかしながら、会費や寄付金が前期より減少し
ました。

経常費用においては引き続き、人件費や事務経費の節
約をおこないました。当期の正味財産増減額はマイナスと
なりましたが、前期受取寄付金の事業を今期に実施したこ
とによります。使途が特定されていない正味財産は前期金
額と同程度となっています。

NPO法人会計基準に沿った会計システムで
会計処理をおこなっています。より詳しい資料
は、当会ホームページにてご覧いただけます。



□方向性 全体方針

この数年にわたり健全化が課題であった財務状況は、いまだギリギリですが改善がすすみました。また、2023年5月には、「中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業」を開始しました。この事業は郡教育局、学校、村教育開発委員会(VEDC)と覚書を交わすことで、事業成果を県内に定着させる試みで、NGOとしては挑戦的な内容です。さらに、今期から始まる第9次中期計画において、事業ではこれまでの成果を継承しつつ発展させ、運営面では資金調達力を高めるとともに、組織の世代交代に取り組み、とりわけラオスでのマネージメント力を高め、自律性を増進する方向性で組み立てられています。このようにこの数年、「ラオスのこども」が取り組んで来たいくつかの課題で成果を見ることができ、活動は今期から新しいステップに入ります。

とはいえ、このところラオス社会はコロナ禍やウクライナ戦争の影響によりインフレがすすみ物価は高騰し、不況が続いています。この結果、都市部においても地方においても生活環境改善は遅く、私たちが携わっている子どもたちの学びの環境改善もゆっくりとしか広がりません。そんな状況ですが、現在すすめている学校図書館を通じた教育改善事業では、熱心に参加し、担い手となる多くの先生方、自治体職員に出会います。この事業を通じ、ラオスの人々が自ら読書推進を担う存在となり、行政の意識が高まることで、子どもたちの教育環境は大きく改善されると期待しています。また子どもたちの環境悪化をふまえ、「子ども教育支援」として奨学金事業を強化します。

今年度も組織運営の基本である資金調達に力を注ぎ、安定した活動ができるよう、より財務状況の改善をすすめます。そのため、コロナ禍以前に実施してきた各種イベントや物販企画に今年度も参加し、さらに書き損じハガキ・切手収集キャンペーンの展開、活動を支援してくれる賛助会員の会員増強キャンペーンに引き続き取り組みます。この他、ラオス事務所において、英文での広報ツールを整備し、国際機関や国際NGOなどが担っている読書推進活動の事業受託を積極的にすすめます。また、東京、ラオス両事務所において、コンプライアンスの意識をたかめ、ご支援をくださる皆さまの期待により応えられるようにすすめます。

今期の運営責任を持つ理事・監事は以下の8名です。

- | | | | | |
|----|---------|--------|--------|----------------|
| 理事 | ・岡田 龍之介 | ・塩谷 光 | ・新藤 雅章 | ・チャンタソン インタヴォン |
| | ・西村 恵子 | ・野口 朝夫 | ・森 千也 | ・森 透 |
| 監事 | ・矢崎 芽生 | ・脇田 康司 | | |

ラオスでのプロジェクト

I. 子どもたちの読書環境を整える「読書推進活動」

●「中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業」

ヴィエンチャン県ムーン郡・サナカム郡の8校で、図書室を整備し、「県教育スポーツ局主導で、図書室活用を取り入れた中等学校教育改善の普及体制が構築される」ことを目標に、3年間の事業を実施する。今年度は、各校の状況に合わせた図書室の整備し、図書室管理運営の研修、学校図書室運営計画策定ワークショップ、「学校図書室交流大会」を実施する。

●学校図書室の整備

小中学校の空き教室に本と本棚を提供し、図書室運営に関する教員研修をおこない、学校に図書室を整備することで、子どもたちが日常的に図書に接する機会をつくる活動を継続実施する。新規図書室を6か所で開催。また、既設置学校図書室の活動継続や再活性化をねらいとして、状況調査を10か所でおこない、必要なフォローアップ計画をたてる。

●ALC図書室(ラオス事務所併設図書室)活動

コロナ禍で停止していた子どもたちに対する働きかけを再開し、読書の場に加え、子どもたちが主体的に参加するアクティビティを開催。研修での展示等を実践し学校図書室のモデルとなるようにする。

II. 子どもたちに良質な本を提供する「出版活動」

専門家のアドバイスを得、質の高い図書を出版する。市場を意識した出版を企画する。今期は準備を進めてきた図書、新刊1タイトル、再版4タイトル、合計5タイトルを出版する。

III. 子どもたちの居場所「子どもセンター運営支援」

現在の活動状況を確認しつつ、センター図書室への図書の補充の支援を継続する。

IV. 子ども教育支援事業

中等学校の生徒向けの奨学金支給を継続して実施。ヴィエンチャン県ムーン郡サナカム郡の8か所の中等学校にて、1校あたり3～5名に対して、奨学金の給付をおこなう。

日本での活動

資金調達や新たな支援者の開拓を目的とし、イベントへの参加や開催を効果的におこなう。企業との連携も継続させる。

学校などに講師派遣して実施する「出前講座」を、オンライン開催を含めて継続する。また、現地での活用と支援者の拡大、開発教育として、「ラオス語絵本プロジェクト」を継続実施。個人協力者に加えて、企業・学校・団体との連携を継続する。また、プロジェクト参加者が活動支援を継続するよう組み立てを工夫する。

資金調達として、引き続き「書き損じハガキ収集キャンペーン」を実施し、個人協力者に加えて、企業・学校・団体からの協力を得て、新規支援者を開拓する。

組織の運営

国内においては、目的、対象と成果を明確にした多様な広報活動を強化することで、より多くの方々に活動の理解をいただき、資金調達に結びつける。

ラオスにおいては、学校における読書推進事業や図書出版の分野において、国際協力機関との連携を強め事業受託をすすめる。また、次の活動の担い手となるよう、スタッフの育成に努める。

2023年度 第22期 予算 (2023年7月1日～2024年6月30日)

科目	金額
I 経常収益	
1.受取会費	1,000,000
2.受取寄付金	6,430,000
3.受取助成金等	2,500,000
4.事業収益	23,100,000
経常収益計	33,030,000
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	8,543,996
(2)その他経費	16,360,000
事業費計	24,903,996
2.管理費	
(1)人件費	2,644,204
(2)その他経費	3,730,000
管理費計	6,374,204
経常費用計	31,278,200
法人税等	70,000
当期正味財産増減額	1,681,800
前期繰越正味財産額	10,254,337
次期繰越正味財産額	11,936,137

第9次中期計画 (2023年7月1日～2026年6月30日)

I 今期の重点

- ・これまで手掛けてきた「読書推進事業」「出版事業」を着実に実施し、より質の高いものとします。
- ・活動を支える募金調達力を東京事務所とラオス事務所で高め、自己資金の拡充に努めます。
- ・この重点目標を達成するために、人材育成に取り組みます。
- ・東京事務所とラオス事務所のより緊密な連携を構築します。
- ・理事会は第9次中期計画終了前に活動を総括し、活動存続の意義を明確化し、次の展望を形成します。

II 組織運営 戦略目標

【組織運営】・これまでの理念・使命を継続し、NGOの理念を保ちつつ、運営の質をより高める

- ・東京事務所ラオス事務所間で理念・使命の共有を高める
- ・会員及び支援者の継続率を向上させると共に、新規支援者を獲得する
- ・ブランド力を高め、支援者を増やす
- ・対象に合わせたメディアにより広報力を強化する
- ・ラオス事務所では、事業の実施において、事業立案、計画、評価活動のサイクルが実施されるようにする

【事業運営】・成果の継続と発展を重視しつつ、変化する現場の状況把握を深める

- ・事業の評価指標が整備され、事業が適切にモニター・評価される
- ・専門家の助言を生かし、読書環境の充実に取り組むことで活動の質を高める
- ・ラオス事務所では、各事業を着実に実施すると共に、ラオス政府との覚書で求められる要件を確実に実施する

【資金調達】・活動への賛同、共感を広げるための寄付メニューを整える

- ・賛助会員を増やすとともに、マンスリーサポーター制度の定着・促進をおこなう
- ・在外ラオス人からの寄付事業支援や、遺贈・相続財産の寄付の働きかけをおこなう
- ・ラオス事務所では、出版事業と連動した図書販売の戦略をたて、NGO国際機関など販売先団体を開拓する
- ・ラオス事務所では、NGO国際機関などから読書推進活動の業務委託を継続する

【人材育成】・専門家の指導と協力をうけつつ、着実な人材育成に取り組む

III プロジェクト

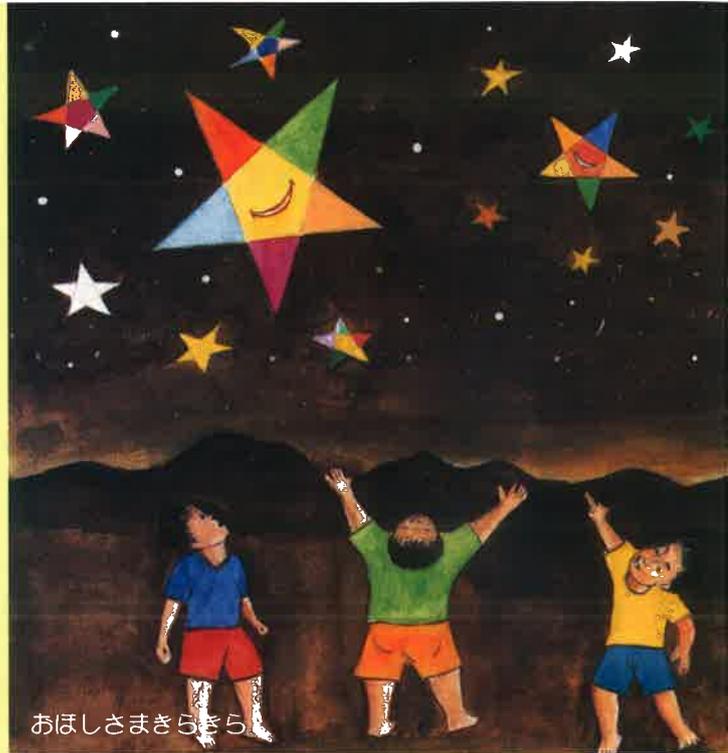
【読書推進】 学校図書室の役割を拡充し、図書室活用を取り入れた学校教育の改善を目指す活動を推進する

【出版】 専門家のアドバイスを得、出版担当者を設け、質の高い、多様な本を計画的に出版できる体制をつくる

【子ども教育支援】 中等学校生徒向けの奨学金支給事業を継続して実施

詳細はホームページに掲載→





特定非営利活動法人ラオスのこどもは、
今なお十分な教育を受ける機会がないラオスの子どもたちの成長を願い、1982年から日本とラオスを中心に活動を続けている国際協力NGOです。おもに、「図書・紙芝居の出版」「学校・地域での図書室設立」「先生向けの図書室運営・図書活用の研修」「作家・編集者の育成」などを行い、子どもが自ら学ぶ力を伸ばす環境づくりに取り組んでいます。

組織の理念

「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくります。

(認定) 特定非営利活動法人ラオスのこども

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303
TEL/FAX 03-3755-1603 E-mail alctk@deknoylao.net
<https://deknoylao.net>